

令和5年度第1回

香美市総合教育会議議事録

日時 令和5年12月1日（金）

午後1時00分 開会

場所 香美市役所3階会議室

令和5年度第1回香美市総合教育会議

日時 令和5年12月1日

午後1時00分から

場所 香美市役所 3階会議室

次 第

1. 開 会

市長あいさつ

2. 議 題

(1) 教育振興基本計画について

(2) 香美市立図書館基本的運営方針及び運営計画について

(3) 香美市不登校児童生徒への支援状況と現状について

3. その他

4. 閉 会

竹崎総務課長 それでは、定刻になりましたので、ただ今より、令和5年度第1回香美市総合教育会議を開会いたします。私は事務局の総務課長、竹崎です。どうかよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、市長よりご挨拶を申し上げます。

依光市長 皆様、お集りいただきましてありがとうございます。教育委員の皆様方には日頃より大変お世話になっております。今日は議会が初日ということで、市会議員の皆様方もありがとうございます。

さて、第1回の香美市総合教育会議ということですが、市長が主催する会ということでちょっと遅くなってしまったんですけども、年度終わり、今日、後ほど説明もありますけれども、教育振興基本計画についても大体まとまってきたということで、そこを中心にしながら、不登校対策とか、いろんな形で議論をなさっていただきたいと思っております。説明がありましたら、また私もコメントもさせていただきたいと思っておりますので、本日はよろしくお願いいたします。

竹崎総務課長 ありがとうございます。それでは、続きまして教育長、挨拶をお願いします。

白川教育長 どうも皆様こんにちは。総合教育会議の第1回目が開催されますことを大変嬉しく思っておるところでございます。教育委員会のほうでは、香美市振興計画の基本理念に基づき、「輝き・やすらき・賑わいをみんなで築くまちづくり」の下、「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の普遍化に取り組んでおるところでございます。私のほうからは、挨拶というよりも本日3点の議題を披露させていただいておりますので、そのことにつきまして簡単に説明をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

まず、本日の総合教育会議では、3つの施策について進捗状況を共有させていただき、協議を深める中で、今後の取り組みへの更なる充実、発展を目指したいと考えております。

1点目は、第2期香美市教育振興基本計画（案）についてでございます。第1期教育振興基本計画は令和5年度までの計画となっております。現在、令和6年度から10年間を見通した、第2期教育振興基本計画を教育委員会において策定中でございます。12月には第8回目の検討委員会を開催し、最終のご検討をいただいた上で、1月にはパブリックコメントにより意見募集を行う予定となっております。次期教育振興基本計画の理念は、郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人を育てるを基本理念としております。したがって、次期教育振興基本計画の大きな目的は、郷土をしっかりと愛し、郷土に誇りを持ち、そして探究的に生涯を通じて学んでいく人、そして、新たな時代の到来の中で、自分達でみ

んなと力を合わせて未来を創っていく人、そういう人を育てる教育の振興を目指したいということで、こういう基本理念としておるところでございます。詳細につきましては、事務局担当大峯よりご説明をさせていただきます。

2点目は、香美市立図書館基本的運営方針（案）及び運営計画（案）についてでございます。開館1周年を迎えたばかりの11月17日には、予定よりも早いペースで10万人の来館者をお迎えし、依光市長から記念品が贈呈をされたところでございます。かみーる開館に当たり、現在新たに香美市立図書館基本的運営方針及び運営計画について、香美市立図書館協議会において策定中でございます。山重統括官から内容説明をいたします。

3点目は、重点施策として、現在取り組んでおります香美市不登校児童生徒への支援状況と現状につきまして、担当小串より説明をさせていただきます。

本日は以上のことを中心に、この総合教育会議の中身がしっかり深まることを願っているところでございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

竹崎総務課長 ありがとうございます。それでは、早速議題に移ってまいります。以降の進行につきまして、依光市長、よろしくお願いいたします。

依光市長 それでは、次第に沿って本日の会議を進めさせていただきます。本日の議題は3件でございますので、1件ずつ説明をいただき協議をしていきたいと思います。

それでは、1件目、教育振興基本計画についての説明をお願いいたします。

大峯係長 それでは、次期の第2期香美市教育振興基本計画の内容につきまして、担当の私、大峯から説明をさせていただきます。

まず、今日お配りしている資料ですが、この素案、それと、こちらのホッチキス止めをしている、これが現行の計画です。現行の10年計画の後期計画の内容になってまして、見比べをしていただきながら、説明をさせていただきたいと思います。

あと1枚物で、今回、この次期の教育振興基本計画を策定するにあたりまして、令和4年7月19日に検討委員会を立ち上げておりまして、その委員の名簿を付けておりますので、そちらも参考にいただけたらと思います。

それでは、これから説明を始めさせていただきます。

この素案ですが、全部で46ページありまして、なかなかこれ全部読み上げるというのは大変ですので、次期の教育振興基本計画の内容の部分について、そこに絞って説明をさせていただきたいと思います。

それでは、31ページをご覧ください。31ページに計画の基本理念と基本目

標を配置した図があります。現行の計画と比べながら説明をさせていただきます。

教育長からも申し上げましたとおり、次期の教育振興基本計画の基本理念として、「郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人の育成」としております。以前の現行の計画では、「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」となっておりましたが、「探究」というキーワードをより強調した内容になっております。この次期教育振興基本計画の内容を作るに当たって、検討委員会でも話をしたんですけど、現行の計画を踏襲しつつ、それをよりグレードアップすると言いますか、今期は探究というところをより強調した内容にしております。

基本の目標として３点、探究、協働、創造とありまして、まず大きな理念として「郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人の育成」ということがあって、「探究、探究的に学び、社会を生き抜く力をもった人材の育成。協働、市民が協働し、共に支え合い、高め合う地域社会の構築。３、創造、夢を育み、新たな価値を創造する教育の展開」と、この３つの目標を達成する為の計画を作成しているところです。

続きまして、３４ページをご覧ください。３４ページのほうに次期教育振興基本計画の施策の全体体系を掲載しております。この現行の計画の３２ページのところが、現行、第１期計画の後期、５年計画の全体体系になっておりますので、こちらもちよっと見合わせながら見ていただけたらと思います。では、この施策の全体体系について、私から読み上げさせていただきます。

まず、基本理念、郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人の育成としております。基本目標、現在の計画では視点となっているところを基本目標という名前にしております。１点目が探究、学ぶ！、探究的に学び、社会を生き抜く力をもった人の育成。続いて協働、つながる！、市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会の構築。３点目、創造、未来を創る！、夢を育み、新たな価値を創造する教育の展開となっております。

それぞれの基本目標に対しまして、施策の方向、現行の計画では基本的方向としておりましたが、この名前を施策の方向としまして、それぞれ、探究については３つの施策の方向を定めております。

まず、探究の（１）誰一人取り残さないきめ細やかな保育・教育の推進と体制整備。その右側のほうに主な施策を、施策の方向に応じた主な施策を記載しております。主な施策としまして、①子どもの育ちの連続性を保障する保育・教育の推進、②子どもの社会的自立に向けた就学前からの教育の充実、③共生社会を目指すインクルーシブ教育の充実の３点を挙げさせていただいております。

続きまして、探究の（２）たくましく生きる人間力を培う教育の推進。こちらの主な施策としまして、①確かな学力と実社会や自己の将来とのつながりを見

通した学びの展開、②豊かな心の育成と一人一人の多様性を認め尊重する価値観の醸成、③健やかな心身の醸成と増進としております。

続きまして、探究の（３）活力ある保育所・学校づくりの推進。こちらの主な施策としまして、①全ての保育所と教育施設における組織力の向上、②保育者・教職員等の資質・能力の向上、③資質・能力の基礎を培う就学前教育と特色ある学校教育の推進としております。

続きまして、協働の部分です。協働の（１）香美市の宝（人・自然・もの・こと）を生かしたふるさと教育の推進。こちらの主な施策としまして、①郷土への愛着と誇りをもち地域の将来を担う人の育成、②地域の伝統文化を生かしたまちづくりとしております。

続きまして、協働の（２）子育て・子育て・親育ち支援の推進。こちらの主な施策としまして、①親育ち支援と地域教育力向上の推進、②地域子育て支援の充実としております。

続きまして、協働の（３）市民協働による学びの場の充実。こちらの主な施策としまして、①地域との連携・協働による地域特性を活かした教育の推進、②地域住民の参画による地域・学校の活性化、③公民館活動の新たなニーズへの対応と充実、④図書館サービスへの市民のボランティア活動やスポンサーによる参画としております。

続きまして、創造の部分に移ります。創造の（１）次世代を担う人の育成。こちらの主な施策としまして、①知の拠点（香美市立図書館・高知工科大学・林業大学校・鍛冶屋創生塾や企業など）を活用した連携活動の推進、②地域社会に参画する教育活動の推進、③持続可能な社会に対応した教育の推進としております。

続きまして、創造の（２）市民一人一人がよりよく生きるまちの実現。こちらの主な施策としまして、①スポーツを楽しむ機会の提供、②市民と行政が一体となって取り組む人権のまちづくり、③芸術文化にふれあう機会の拡充としております。

続きまして、創造の（３）地域社会をともに創造する場の充実。こちらの主な施策としまして、①香美学園都市の充実、②子どもが社会に意見できる場の設定や主権者教育の推進、③いつでもだれでもデジタルスキルを習得・活用できる環境の整備となっております。

それでは、主な施策の具体的な内容に関しては３５ページ以降に載っておりますのでそちらを参照していただけたらと思います。今日お示ししているこの資料ですが、業者に修正を依頼してまして大きくその内容が変わるということはないようですので、この内容をもって１２月５日に第８回目の検討委員会を開催する予定です。そちらでこの素案をお示しして、概ね内容にご了承いただ

ましたら、年明けにパブリックコメントを実施して、2月にもう一度検討委員会を開催させていただいて、計画として了承していただくというような流れになります。

私のほうからの説明は以上とさせていただきます。ご審議よろしくお願ひします。

依光市長 ありがとうございます。それでは説明をいただきましたので、委員の皆様からご意見をいただければと思いますが、何かお気づきの点、いかがでしょうか。

宮地委員 31ページです。ちょっと昨日でしたか、この図が座りが悪いぞと大分言いまして、「郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人の育成」、これ真ん中に来てるわけですが、この丸が非常に小さくて、訴求力がないんじゃないかって指摘したら、早速直してくれてまして有難いなど。やっぱり探究、協働、創造の3つに全部にかかってますから、何かこれが一つ孤立感がありましたので、ちょっと指摘したところを早速直していただきまして、ありがとうございますということです。

依光市長 ありがとうございます。他に何か。

浜田委員 多分、よってたかって教育という部分についていろいろな議論があると思いますが、よってたかって教育そのものは、言葉として、本来よってたかって地域が育てる教育、まあだから、違ってくるのはみんな一緒になって地域が育てる、今までは学校とか、そういう限られたところで、どっちか言うと学校教育のほう为主であったのを、全体、生涯教育も含め全部をやっていきましょう。かつ、先生だけでなく地域の方も一緒に学校に入り込んで一緒にやってくださいよという意味で書かれてると思うので、こういう文章の中で使う時は、多分、地域が育てるという部分を強調していただければと、個人的には。

依光市長 分かりました。まあ、よってたかってというよりは、地域がのところをこう…

浜田委員 よってたかっていう、人によってはたかってという言葉があるので、やっぱりそのままの部分、今までこうキャッチフレーズ的によってたかって教育であった部分がありますので、それはインパクトとして見えるんですけど、今回、その言葉と合わせて地域が一緒になって子ども達、市民も一緒に学び育つと、の部分を含めてやるということで、文章にする時には、そういう言葉を、例えば…

大峯係長 最初の「はじめに」のところで、よってたかって教育の説明をしていってますので、その内容で。

浜田委員 そうですね。30ページにも一番上に、「香美市民みんなでよってたかって育てる「香美市よってたかって」教育により」、ここに「香美市民みんなで」という言葉はあるんですけども、その辺を気を付けていただければ、非常に有難いかなと思います。

依光市長 まあ議会のほうでも、「よってたかって」という言葉に対していろんな意見があったというふうに聞いています。ありましたが、今回の計画については「よってたかって教育」という言葉を残して進めていくということですね。

浜田委員 ちゃんとまあ解説も…

依光市長 解説を入れながら、まあ残すという方向で、分かりました。

浜田委員 その辺をちゃんと理解していただきたいなという。

依光市長 まあ、その見せ方の工夫もあるし、説明をどうしたらいいのかということもあるし、まあこれまで使われてきた言葉であることは間違いないので、それを一つ入れてというような考え方で行くということですね。

浜田委員 そうですね。

依光市長 分かりました。他に何かご意見ありますか。

宮地委員 もう一つだけ。今、事務局のほうから説明してなかったんですが、1ページです。

1ページにやはり図があるんですが、此处に「探究あふれる 学園都市 香美市」というのがあります。そこに「まち」とルビ振っておるんですが、「学園都市」っていろんな意見がございまして、通常はつくば市とかいろんな発想をするわけですけども、香美市の場合、じゃあ都市なんかって言われたらいろいろ議論がありましたので、「まち」という言葉を、ルビを振ったらどうかということで、「探究あふれる まち 香美市」っていう、あえて「学園都市」の漢字は残すんですけども、「まち」と平仮名でルビを振ってということがありました。これもちょっと教育委員会のほうで指摘したりして、お話をしてきたわけです。そ

のことを済みません。

依光市長

他に何かご意見は無いですか。

じゃあ私のほうから、正にその「学園都市」っていうことが今回言葉に入って、「まち」という形で読ませるということですけど、まあ市長部局、市長としての方向性としても、学園都市っていうことは打ち出していきたいというふうに思っています。やはり幼稚園・保育園から大学、特別支援学校、ここの1ページに書いてあるようなことですが、そこをまちづくりの中でも学園にしていきたいという思いがありますので、じゃあ、その学園都市、香美市の特色は何ですかと言われた時には、私自身は探究であるというような形で説明をしたというふうに思ってます。

ちょっと今日は大綱のこともお話ししようかということも思っていましたけど、概念的に言うと、お話としてはもう全く一致しているので、それを、大綱を作る時にはここを併設しながら、いろんな方に香美市のまちづくり、教育はどういったものですか、それは学園都市であり、探究を位置付けていますと。更には、よってたかって学習フォーラムでも探究のコンテストをやるというようなことも含めて、そこをうまくPR出来るような形で大綱をまとめていきたいというふうに思っていますので、ここで一回揉んでということでもありますので、またお話をさせていただきたいというふうに思います。

他に何か。

白川教育長

訂正です。31ページの先ほどの図でございますけれども、探究のところに「探究的に学び、社会を生き抜く力をもった人材の育成」の育成という言葉がございしますが、来期からは人材とかつくるという言葉よりも、人を育てるという方向で行きたいと、勿論思いは同じであったと思います。したがって、この「人材」という言葉は、人を育てるとか、人をつくるというふうに変えてはどうかというところで進んでおりましたので、この際、此処だけ多分書き抜きだと思っておりますけれども、探究の枠の中の「社会を生き抜く力をもった人の育成」というところにさせていただこうというところです。

依光市長

他のところは、じゃあそういう形で直っているということ。じゃあ、そこら辺ちょっと、精査してもらったらなんですが。

ちょっとまあ、私もちょっと1点だけ、43ページの「スポーツを楽しむ」というのと、「スポーツに親しむ」というのが2つ書かれて、個人的には「楽しむ」ほうですね、何か「親しむ」って言うと、上からこう皆さんに分け与えるみたいなイメージがあるので、まずは個人個人が楽しんだらいいと思うので、43ペー

ジの①のところ、主な取組というところが、主な施策のところ、上は「楽しむ」になってるんですけど、下は「親しむ」になっているので、「スポーツを親しむ環境・体制の充実」で全然良いと思うし、イメージ的には、親しむよりは楽しむほうが主体性があるように思いますから、ちょっと此处は気になりました。

言葉を統一していただければ、もう一回ちょっと見てもらったらと思います。他は何かございますか。

村上副市長

35ページ以降の具体的な取組内容を書いているところの見方なんですけど、例えば42ページを見ますと、主な施策として、34ページの表の中にあつたものが再掲をされていると、そこから主な取組と来て具体的な取組内容となっているんですが、此处は同じ整合が取れてないように見えるんです。

例えば、①知の拠点として、香美市立図書館、高知工科大学、林業大学校、鍛冶屋創生塾や企業など、それはその後の主な取組のところには出て来ないんですね。具体的な取組内容としても、この何処かで読むということなのかもしれないけど、此处はどういうふうに見たらいいんでしょうか。

要は市長部局として、あるいは民間でも、あるいは個々の教育管理もそうなんですけど、具体的に何をするのかというところがよく整理が出来て見えないですね。この辺りをこれから整理をされることなのかもしれないんですけど。

せっかくまあ新しく、主な施策で「【新】」と書いて多分新しく今回上げられたところだと思うので、具体的にこんなことをしようとかいうところがあるんじゃないかと思うので、それをこの具体的な取組内容のところに掲げると、こういうことやないのかなというのが、ピンとくるのかなと思ったのでお尋ねをしたところなんです。

白川教育長

もう少し詳しく書ける方向に、ちょっと審議をしないといけないかなと思います。例えば35ページを見ていただきますと、主な取組の①として、「子どもの発達や学びの連続性を保障する教育・保育の質の向上」で、今一番課題になっているのが、保幼小架け橋期プログラムの実施をどのようにしていくのかということが一つの課題になっておりまして、「保幼小架け橋期プログラムの実施において、PDCA サイクルによる評価と改善・実践を繰り返して、長期的な計画の明確化と質の向上を図ります。」という、これは割と具体的なのでちょっと私のほうが混乱しておりましたけれども、42ページのほうはそれから言うと、もう少しこう大きい説明になっていますので、具体的なイメージが市民の皆さんや取り組む我々にとってもはっきり分かるように、もう少し此处は書き換えていきたい。

村上副市長

恐らく主な施策のところでは柱立てをしていて、まあ主と言うからには多分これに入らないところもあると思うんです。そこから更に主な施策をクローズアップして、その中も主な取組として、括弧書きの左側があって、その更に具体的なものとして取組内容が２段で重ねているという、段々そのズームインしていくという構図だと思うので、その辺りもう一度その、ちゃんと流れているのかなというところの整理をされると、より分かりやすいかなと思いました。

依光市長

まあ、副市長が言われたところで私もちょっとコメントをさせてもらおうと、４２ページのイノベーションを担う人の育成のところですけど、今回は探究というところがキーワード、大綱でも主体的になってますし、それと、先ほど浜田委員が言われたように、地域が育てる、また学園都市、これどういうふうに繋げていったらいいかと言うと、結局探究って何かって言ったら意欲の話だと思うので、例えば子ども達が何かをやりたいとか、何かその興味を持つ、そこから探究が始まるんですけど、そういうところで此処に書いているところで行くと、背景と課題のところの４列目に、「多様な人との出会いや経験などによって得られる着想がイノベーションのきっかけとなります。」というここがポイントで、要は学校教育だけの中で知識を詰め込むのではなくて、いろんな世界との繋がりを広げていけるまちにしたいと。簡単に言ったら、今でも積丹町との交流があったりして、雪国との交流をこれまでしてきましたし、また外国との交流ということで、香北中学校が海外といろいろやったりと、小学校もやってると思うんですけど、だからそういうところでこう、いろいろな多様な人との出会い、これがモチベーションになってくる。それと学園都市っていうことで言ったら、大学生と出会うことも出来るし、高校生と出会うことも出来るし、そういう意味で行くと、何か学校に閉じこもらずにいろいろな刺激を与えていくと、それがイノベーションを担う人材の育成になると思うので。だからまあ、都会だったらコンクリートしか知らないかもしれないですけど、香美市の子ども達は豊かな自然も経験出来るし、インターネットも経験出来るしっていうような形で、何かそういう整理にしていって、せっかく主な施策ということで高知工科大学、林業大学校、鍛冶屋創生塾って書いてあるので、それを教育の中で子ども達が鍛冶屋さんのところを見るっていうのも何かイノベーション、ものづくり、アーティストが行えるかもしれなので、何かそんなイメージで何かこう、せっかくイノベーションを担う人の育成ということなので、副市長が言われたようにちょっと何か分かりやすいことも書くと、何か伝わりやすいかな。だから探究と学園都市っていうのも繋がると思う、何かそういうところで市長部局としてもあれば是非、視察であったり、修学旅行も良いところ行ってもらいたいっていうのも思っています。

以上です。

じゃあ、他どうですか。多分この話があつてまた議会でもいろいろと出てくると思いますが、此処を今日、委員の皆様方としてはどうですかね。良い形で進めていただいているなというふうに思います。

浜田委員

基本は今までは飛び込んで行って、例えば地域とやっていく施策としては、コミュニティスクールなんか従来無かったのをそういう形で取り組んだり、学校の関係とか、いろんなものを作り上げて、地域と一緒にやっていくということは、徐々に出来ているとは思いますが。だからそれを基本にしながら、更に出来ているものをベースにしながら、やっていっていただきたいというのが自分達の思いですので。

依光市長

分かりました。地域が育てるところでいろんな人が関わる、だからその仕掛けを予算的なところでも、香美市の教育っていう、香美市に行くといろんな刺激が与えられて、子ども達が何か自分でこう探究心を育んで自分でこう調べていく、どんどん進んで行けるようになればいいなと思います。

市長部局としてはそういったことで、また一緒に教育委員会ともやっていきたいという。

他はよろしいですか。じゃあ、順番に行きたいというふうに思います。

それでは、2点目、香美市立図書館基本的運営方針及び運営計画についての説明をお願いいたします。

山重統括官

図書館統括官の山重です。よろしくお願いいたします。

お配りしている資料で、香美市立図書館基本的運営方針（案）と、香美市立図書館運営計画（サービス計画・蔵書構築計画）（案）があると思うんですが、この2つの案については、現在図書館協議会でお諮りしています。

図書館協議会は、図書館法で定められた官庁の協議機関、意思決定もそうなんですけれども、官庁の相談に乗る機関として設置されております。

この運営方針ですけれども、これは図書館法で、図書館の設置及び運営に関する基準を定めるということが決められているんですけど、その基準の中で、図書館の運営方針を定めると書いてありますので、基本的にはその線で作って行きたいと。それから、設置及び運営上の望ましい基準のほうでは、毎年度事業計画を出しなさいと書いてあるんですけど、なかなか毎年度ボリュームのあるものは作るのはちょっと大変なので、基本的運営方針を定めて5年毎に改訂していくような計画、まあ現在はサービス計画っていうのを作っているんですが、二本立てにしようということで、この運営方針と運営計画を作っています。

昨年の11月に開館したかみーるですけれども、10年ぐらい、かなり長い検

討をしまして、いろんな委員とか、あと市民の方にもワークショップ的なことでいろいろご参加いただいて、その意見も入れて作っている図書館で、大きなコンセプトが3つあります。知の拠点ということと交流の場、発信の場というのがありまして、基本的には運営方針はそれを膨らますと言うか、もうちょっと内容を入れる形で案は書いてあります。

一応目標値も入れていますが、先ほど申し上げた国が定めた図書館の設置及び運営に関する基準では、実は数値基準が無いんですよ。いろいろ事情があるんですけど、簡単に申し上げると、結構図書館の場合、サービスに日本全国で格差が非常にあって、財源が豊かな都市部の図書館は低過ぎる基準だとちょっと困ると、その図書館の人からすると。ところが、都市部と同じ基準にされちゃうと、地方だとハードルが高過ぎてとても無理って、なかなか意見が合わなくて少ない数値基準がずーっと続いてしまってるんですよ。そういったことを委員の参考意見とか、別の文章が出てたりして、報告書で参考として、それは日本図書館協会って図書館の団体があるんですけど、基準とは別途、公立図書館の任務と目標というのを作ってまして、それは実際に全国で実績のある図書館で、具体的には人口当たりの打ち出しが上位の10%ぐらいに入る図書館の資料費だとか、本の冊数だとか、そういうものを努力目標にしたらいんじゃないかというのがありますので、一応それに基づいた計算はしてます。ただ、直に言うと香美市の財政状況等から、かなり無理じゃないかってちょっと怒られちゃうかもしれないんですが、まあ、資料費で言うと1,900万円ぐらいあるということになるんですよ、香美市の場合、人口が減っていてもですね。現在800万円台ですから、2倍になっちゃうんですけど、というのがあります。一応長期的な目標としてそれを書いておいて、まずはそれに見合うような人口当たりの貸出しも伸ばしていきたい。今残念ながらそんなに多くないので、当然かみーるになってから、どんどん登録者が増えてますので、今後間違いなく増えていくんですけども、そこら辺は数値基準も入れてます。

運営方針は長期的なものになるので、とりあえずまず5年の間に、具体的に何をするかというのを短くまとめたのが、運営計画のほうでサービス計画と蔵書構築計画を一体化させてます。

図書館の場合には蔵書が無ければサービスが勿論無いので、当初は別に作ろうかなというのも考えたんですが、一体にしてどういうサービスをするからこういう本が必要なんだというほうが分かりやすいのかなと思ひまして、一緒にした形で作ってあります。

5年後ぐらいには資料費のほうも1,000万円ぐらいあるといいなと書いてますけど、これは図書館で、勝手に決められることじゃないので、そのぐらいだったら、これに書いたことはある程度出来るんじゃないかなというので一応

書いてあります。

蔵書の充実は、やはり準備の段階で1,000万円こうやって資料費もちょっと付けていただいて、従来に比べれば当然蔵書は充実してるんですけど、実際にもう利用者が毎日一杯来てくれて、利用状況も見て充実しなきゃいけない部分も段々明らかになってきてますので、それに基づいて幾つか重点分野を5年以内はここら辺はやりたいと思う。2ページですね、この運営計画の2ページのほうに書いてあります。

1つは、農林業の図書を是非充実したい。今ははっきり言ってとても少ないですけど勿論土地柄で当然、農林業は主要な産業になってます、農林業の図書を充実したい。それから、その他の産業について、商工業とか観光の振興に資する図書も当然入れたい。これは香美市振興計画の政策にも入ってますし、今度「あんぱん」もやるし、観光にもきっと来てくださると思うので、情報提供する方の人に参加になる本も充実したい。

それから、当然学校とも連携してやっていかなきゃいけないので、教科学習の内容をやっぱり広げ深めるためにはいろんな本が必要になるので、それを読んでもらったら良いと思いますので、現在も国語科の教科書に今いろいろと本が紹介されているんですけど、それを今買い集めています。国語は一通り大体買った感じなんですけど、小中学校については。当然社会科だとか、そういうところにもいろんな本が出てきますので、有名な本とか、いきなり読んで学生が分かるかと言うとちょっと難しい本もあるけど、あっ、こういう本なんだっていう話してもらいたいので、そういったものも集めていきたい。それと当然社会教育の一分野です所以図書館についても、その他の社会教育、スポーツも含めた、社会体育も含めたものには役に立つ本も充実していく。その他サークル活動でいろんな活躍されてる方、勿論いらっしゃる、地域もいろんな活動がありますので、そういうのにも役に立つものを入れていきたいというのを具体的に挙げていきます。

それとあと、元々のこの図書館が知の拠点、交流、発信っていうふうに三本柱にしてるのは、別々に何か3つのことをやるっていうのではなくて、従来の図書館のイメージで言うと、単純に本を読むところというのがあって、何となくこう本好きの人が来てそれで完結しちゃってる感じがするんですけども、相当本が好きな人が、一生1週間に2冊ぐらい読んでも1万冊も読めないで、100人来ても1万冊に行かないので、毎年8万点余りの本が出ていて、オーテピアに150万冊ある、国会図書館に800万冊ある、かみーも7万冊ある。かみーの本だって一生かかっても読めないわけなんで、一人一人がただ読んで終わってるんだったらとてももったいない。だから一杯本を読んだ方達がお互いに交流をして、いろんな知識を交換し合ってディスカッションをすれば、何か

もっと生まれてくるものがあるだろうってということで知の拠点、交流、発信、公表した後にもう発信までしていくと工科大学とか、その他教育機関と連携する意味が非常に深まっていくと思いますので、そういうコンセプトで来ているので、それをベースにした運営方針に移ります。

細かい説明しませんでしたけど、要点をご説明しました。

依光市長 ありがとうございました。それでは、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

浜田委員 もう既に取り組んでると思いますけど、図書館の形として一般的な香美市のような、県立大学図書館と大学とか学校、小中学校も、形態が少しそれぞれ違いますけど。大学なんかは特に専門、あるというのは専門図書館、それも工学やったら工学系のほとんど、そことうまいこと連携をしながらやっていけたらいいなということ。学校は学校で、その連携をどういう形で取るかと言っていると、今回香美市にとって非常に良い「あんぱん」、本来なら漫画家も多く輩出してきた香美市ですから、その辺も踏まえて、図書館でどういう企画がそれに併せて出来るかなあという場合に、漫画本を入れていただきたいなという、それに併せた企画をどういう形でうまいこと出来ていくかなあという、多方面での図書館の活用というのをちょっとやって、やられるとは思いますが、是非お願いしたい。

依光市長 まあ、「あんぱん」もいろいろ考えられてるようなので。

山重統括官 既にやなせたかしさんの展示はちょっと小規模なものをもう始めているんですけど、図書館の場合一番やりやすいのは、アンパンマンとかは、正直言ったら著作権とか、知的財産権がかなり厳しいかと思うんですけど、図書館の場合には例えばその、既に行ってますけど読み聞かせなどは、いわゆる著作権法の財産権の制限があって図書館だと出来るんですよ。他のところでやるのはちょっと容易じゃないところが実はあったりするんですが。なので、蔵書でもっているアンパンマンのホールで読み聞かせをシリーズでやるなんていうのは直ぐに出来るんです。まずは一つは。

それと、漫画は今のところあんまり沢山入ってないんですけど、それは協議会の方とかその他の方から意見をいただいているので、漫画を入れるのはもうちょっと資料費が欲しかった、正直なところなんですけれど、当然それも、選んで買わなきゃいけないですけどね、物凄い沢山あるので漫画は、選んでいてもちょっと何かと思いますけど、それも揃えていくということも考えています。

あと工科大学とかとの連携で言うと、資料の貸し借りはもう既に行っていま

す。ただ、さっきも言った単に本が読める図書館で終わっていったら面白くないので、つながる一むとかそういう部屋も、設備も充実したしw i - f i も使えて、インターネットは使い放題なので、かみーるに来れば。

例えば、オーテピアなどでは既にやってるんですけど、プログラミングの学習の講座とかやったりしてるんですよ。大学の名刺にもいろいろ出るようになって、もうほぼ必修みたいになってるんですけど、学校で今教えてるのは、具体的な現実のプログラミング言語じゃないんです。それとあと小学校でやってるのはスクラッチとか言う、完全なプログラミング言語だけじゃないんですけど、恐らく進んだ子どもだったら多分書けてしまうプログラミング言語。それから今、人工知能のチャットG P Tとかがプログラミングのソースコードをある程度書いてくれちゃたりするので、恐らくは進んだ子どもとか生徒さんだったら出来ちゃうと思うので、そういうのをつながる一むを活用して、工科大の専門の先生方もいらっしゃるし、学生でも知ってる人はいると思うので、やっていくってようなことはまず考えられるかなと思います。

依光市長

いかがですか。他は。

宮地委員

山重さんのご説明を聞きながら考えておったんですが、この運営計画の6ページですか、ここに児童／ティーンズ・サービスっていうのがございまして、ちょっと書き切れてないところがあって、教えてもらいたいんですけど。

保育園の子どもさん方と、いわゆる図書館に来ての遊びと言うか学びと言うか、そういったのはどういう状況でしょうか。

山重統括官

そうですね、まず児童クラブですかね、団体貸出しで相当沢山貸しています。児童クラブに限らずいろんな福祉施設の団体貸出しが相当多いんですけど、学校も使ってくださっているところありますけど。保育園にも貸しているところもあるけど全部じゃないんですけど、今図書館で一番活用されているのは団体貸出し。特に香美市の図書館の場合は、余り冊数とかうるさい制限付けてないので、相当沢山借りられていて、あとは当然毎週お話し会もやってますし、それは職員が直にやるものもあれば、ボランティアの方でやってくださってる方もいらっしゃいますし、それから外国語のお話し会も始めてます、英語のお話し会もあって、実際バイリンガルの子どもも来てますけど、今のところはそんなところですね。

宮地委員

図書館が完成する直前だったんですが、あけぼの保育園の園長さん達という話して、もう出来上がったらどうしますか、毎日でも子どもを連れて行きま

すっていうお話だったんですよ。だから出来るだけ学校の子も達だけではなくて、保育園の4歳児、5歳児辺りがいろいろ活動が出来ますから、是非図書館に行って、読み聞かせなり何でもいいですから遊びを通したことをすると、益々図書館教育が充実してきますので、それを是非お願いを前にしたことがあるんですが、そういうことを積極的にまずしていただくと有難いなと思った次第で、今ご質問させていただきました。

依光市長 他はいかがですか。どうぞ、お願いします。

小松委員 5ページなんですけれども、図書館利用に障害のある人へのサービス、最近なんか大分増えてきたなと拝見してて思うのですが、貸出し状況とか利用状況っていかがですか。

山重統括官 要は障害者手帳持ってる方でなくても、積極的に老眼、自分も老眼ですけど少し、やっぱり読みやすいので、前はだから奥のほうへ置いちゃってたんですけど、もうすぐ分かるように前のほうへ持って来て、場所も変えました。これからも充実したいと思ってます。

依光市長 他はいかがですか。

西委員 かみーるが出来て、凄くこう、かみーるに、香美市外の方からも凄い来られる方とかも増えてきてはいると思うんですけども、香北とか大栃とか、そっちからかみーるまでわざわざ借りに来るとか、そういう状況っていうのはあんまり無いっていうふうにお伺いをあちこちからして、今実際、香北の図書館っていうのは間借りをしているような状況で、放課後、香北中学校の生徒とかは割と来て、図書館の出入り口の吹きっさらしのところで勉強をしたりとかされているっていうのをこの前もちょっとお伺いもしたんですけど、置いてる本自体も香北はかなり少ないです、スペースが凄く小さいです、そういう子達がかみーるまで来るっていうのはなかなか厳しいという状況もあって、少し地域格差、同じ香美市の中であって、香北と山田の間で凄く地域格差っていうのが少し出て来るんじゃないかっていうふうに危惧してるんですけど、その辺りはどういうふうに、これからなっていくのかなっていうのをちょっと、香北に住んでいる者としたら思ったりしています。

山重統括官 そうですね。実際、特定の方は香北の方で直接かみーるにおいでになってる方も結構いることはいます、ただし特定の方ですよ。だから多分、全然来てない人

もいるかなと。香北町の人達はこの間来たんですけど、どのくらい登録してるかなって聞いてみたら、なんか半々っていう感じで、やっぱり全然来たことないっていう子どももいたりしたので、大人だったら車運転して来れるけど、なかなか来にくいのかなっていうのもあるので、今図書館が自ら出来ることで努力していることは、買った本で、割とこう人気がありそうな本をあえて香北とか物部のほうに回したりしてます。だから逆に言うと、かみーるに来館された方が無いもんだから、予約して香北や物部から取り寄せてる感じがある、蔵書が少ないほうから取り寄せてる感じになってますけど、割と香北や物部に優先的に、良さそうな本を回すようにはしています。

依光市長

じゃあ、私のほうからも。予算のところもあって、やっぱり自分としても本を読む子ども達を増やしたいという思いもあるので出来る限りのことはしたいと思ってますし、また企業サポーターっていう形で、雑誌とかは企業協賛でやったりとか、いろいろ努力もしていただいて本当にありがとうございます。

また香北のことが出ましたので、これもやっぱり検討課題として地元の声も聞いています。アンパンマン図書館という話もあって、いろいろなことで何とかしないといけないというふうに思っているんで、まあちょっと時間をいただきたいなというふうに思います。

その中で、やっぱり図書館の交流では、いろんな刺激を与えていただいているなと思って、先日落語をやってて、行きたかったんですけど別の会で行けなかったんですけど、そういうところでもありますし。

また、昨日ちょっとNHKのテレビへ出たっていう話もあって、それは何かと言ったら、狂言を川上神社でやっていて、それが子ども達も凄くこう喜んだ。狂言師にとっても、大きいホールとかじゃなくて地元の子も達ワイワイ言ってる中で狂言を披露をしたっていうのが、凄く演者にとっても良かったっていう話があって、その伝統文化みたいなところへも、かなりかみーるに担っていただいているようにも思ってます。

これから図書館で、本ではないけれども図書館に足を踏み入れる人も増やしていただきたい思いもありますけど、企画をやっていく上で何か課題とか、市長部局のお手伝いだとか、何かそういうのがあれば教えていただければと思います。

山重統括官

落語とかは、本当にやってくださる方さえいれば凄いやりやすい、特に設備が特段要るわけじゃないので。そういう方に沢山紹介していただければそれは勿論一番有難いですけど、図書館が全部探すのはなかなか。今回の落語はむしろ向こうの方々がやってくださるって言って来てくださったところがあるんですけ

ど、特に口承文芸については、落語とか講談とか、実は図書館なんて情報センターなんです、あんまり知られてないんですけど、ユネスコが公共図書館宣言っていうのを出してまして、つい昨年新しいのに改訂したんですけど、もう世界的に口承文芸の伝統を維持して、そういう場を提供するのを図書館がやってくれていうのを書いているんですよ。それは何故かと言うと、文字を持ってる民族ばかりでないので、例えば日本でもアイヌが、まあアイヌの筆頭は、勿論ローマ字で書いたり仮名を引用したりしますが、固有の文字持ってるわけじゃない。日本人そのものが固有の文字持ってるわけじゃないんですけど。それで口承文芸っていうのは実は図書館では、非常に位置付けが実は高いんです、余り知られてないんですけど。ですから、この間の落語なんかもそういう意図もあってやったし、能楽や狂言も当然そういうの入ってきますし、講談とか。最近は流行らなくなった浪曲とかもあるわけですけど。それでも積極的に取り組めたらと思っています。ただあんまり知らないんで、勿論有名な方々は知ってますけどそれはちょっと、多分それなりのお金を積まないと言われてることもあるかと思うので、そこまでじゃなくてもいろいろやってくださる方をご推薦とかいただけると非常に嬉しいと思います。

依光市長

ありがとうございます。それと、もう一つ本の面白さをうまく伝えるっていうところで、先日も本の紹介ので、山田高校の生徒さんがいい成績を取ったみたいなこともありますけど。何か今、図書館のほうでもそういった活動、本の面白さを伝える取り組みみたいなものをやられてますけど、それはどういうふうな形で進んでますか。

山重統括官

多分今日もやることになってると思うんですけど、伝統的ですけど読書会、あんまり難しくない読書会を、昔の読書会はちゃんとしたものだったんですけど、気軽な雰囲気なんですけど、まあフラッと来てもいいような読書会、多分今日、今実施してますね。それと、高校生の方もそうですけど、子ども司書っていうのをずっと香南市と一緒に取り組んでるので香美市の場合は。子ども司書の方にも紹介してもらって、今館内に登場します。いろんな形で関わってくれた生徒さんなんかにも本の紹介、ポップっていうんですけどね、書店でもあるんですが、それなんかを出してもらったりしてます。

ビブリオバトルは、多分先ほどのお話はビブリオバトルのことだと思うんですけど、オーテピアで県はやってるんですけど、まあ別にビブリオバトルは大げさなものでなくても全然構わないので、一回やったかな香美市でも、全然やったことがないわけじゃない、何回かやってるはずなんですけど、それはまたやっていきたいと思ってます。書評合戦ですね、ビブリオバトルっていう書評合戦と

いうのがあって。

依光市長 まあ本当にねえ、なんかそう本好きの子とかにも何かこう、PRの場と言うか、何か発表の場になって、自分としては子ども達に、発表の場をいろんな場面で作れたらいいなというふうに思うので、スポーツの部活だけじゃなく、文化系の部活とかもなんかPRの場になってくるんじゃないかと。

それと最後に、「市の政策を下支えする図書館」というのがあって、此处は開館時間を延ばす時にうちの職員は、図書館に行ってちょっと本を見てから帰ったら嬉しいなということを思いながらだったんですけど、此处にあって「地方が自ら調べ、自ら考え、お互いに話し合っ、自ら立案し、自ら組織化し行動していく」というこの4ページにあるんですけど、此处について、市長としてなかなか命令も出来るわけなんですけれど、どうしたらいいんでしょう。

山重統括官 1つは、これも資料費がそれなりにかかるんですけど、地方創生って特に国がやりだしてからですけど、本も出てます、雑誌も出てる、そういう専門の雑誌もあるみたいですから、そういったものをまず単純に集めたいというのがあるんですけど、それ読んで欲しいんですよね、いろんな事例が載ってますから。

それともう一つは、まだ出来てないんですけど、具体的にいろいろ取り組んでいる自治体さんをお願いして資料をもらうということは、同じ自治体同士なんでやりやすいと思っているので、それをやっていけば参考になる資料が集められるみたいな。具体的に何かやっても、集めて集めてとかつてあるかと思うんですけど、事前に図書館である程度集めてしまうというのをこれからやっていけばいいんじゃないかなと思います。

依光市長 人材育成のところでなかなか忙しくて若手も育てられないということがあると思うので、仮に自主的に若手が勉強してもらえような環境も作りたいなと思います。またこの辺も是非図書館として、非常に実績を挙げていただいてありがたいというふうに思ってますし、来館者10万人達成も丁度行かせていただいたので、視察もいろいろ来ていただいて誇らしく思ってます。ありがとうございました。

じゃあ、よろしいですかね。

それでは、続いて3番に行きたいと思います。香美市不登校児童生徒への支援状況と現状についての説明をお願いいたします。

小串指導主任 私のほうからは、令和5年度の香美市不登校児童生徒への支援状況と現状について説明させていただきます。

まず、お手元の資料の方、今回2点用意させていただいております。カラー刷りの方と不登校支援のマニュアルについて用意させていただいております。まずはスライドに沿って、順に説明をしていきたいと思っております。

令和4年度末の不登校の状況についてですけれども、こちら左のグラフの方は、平成28年度からの香美市、高知県、国の1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移を表したものとなります。香美市では、令和3年度まで不登校児童生徒数は増加傾向にあり、県・国と比較しても非常に高い数字となっておりますが、昨年度の令和4年度はそれまでに比べると大きく減少しています。そして、右のグラフは、不登校児童生徒の継続者数と新規数の推移を表したものとなります。令和3年度の不登校者数の内訳としては、この年、中学3年生がこのうちの16名、そして小学校1年生から中学校2年生が40名となっております。中学校3年生は翌年度には卒業する為、令和4年度はこの残った40人が継続の不登校者数の対象となるわけですが、こちら見ていただいたとおり21名と大きく減少しています。

その一方で上に積み上がっているこの青い部分、こちらは新たに不登校となる児童生徒の数になるんですけれども、こちらが非常に多い状況となることが分かると思います。その為に魅力ある学校づくりの取り組みを通じた未然防止の取り組みと、初期対応を講じていく必要があります。わかる授業づくり、心の居場所づくり、多様な絆づくりに各中学校毎に取り組むと共に、ICTを活用した不登校状況の確認、表面に表れていない子どもの心の変化への対応。また、兆し情報を収集し、お手元にお配りした香美市不登校児童生徒支援ファイルマニュアルを活用し、組織的に取り組んでいます。

この不登校支援の児童生徒マニュアルのほうを少し見ていただきたいと思います。

まず、この不登校児童生徒支援マニュアルの3ページをご覧ください。

3ページでは、出欠状況の朝の確認を香美市内の全小中学校必ず実施してくださいという内容となっております。朝の登校及び健康の確認、そして出席簿、校務支援システムというICTを活用した出席簿入力を必ず行ってくださいということをお願いしています。こうすることで、担任以外も直ぐに子ども達の出席状況を把握することが出来、その後の家庭への連絡等に素早く繋げていくことが出来るという為に、全小中学校で取り組んでいるところになります。

そして5ページ、こちらのほうは初期対応で不登校を防ぐということで、子どもに見られるサインを見逃さない、教職員の経験年数に関わらず、こういったサインを見逃さないようにということでマニュアルで確認をしています。

そして、初期対応の流れ、1日目を見逃さず組織で対応をしていく。担任だけではなく学年団やコーディネーター、管理職含め子ども達の支援に当たってい

くという、組織体制についてマニュアルを作っています。

また、不登校担当教員を中心に大きく不登校の人数を減らした山田小学校の取り組みの実践例も、こちらの11ページ以降に掲載しており、各学校でこの山田小学校の取り組み実践を参考にしたり、山田小学校が作成している活用資料等も参考にしながら、現在、不登校支援に取り組んでいます。

併せて継続者へのアプローチとしては、こちらの表にもありますように鏡野中学校サポートルーム、教育支援センターなどにおいて、自立支援に取り組んでいくと共に、長期に亘る不登校の状況が改善しづらい児童生徒は、医療機関や福祉事務所などと連携しながら支援に取り組んでいます。

また今年度は鏡野中学校区で、5つの小学校と中学校を繋げる校区内連携の取り組みもスタートしています。山田小学校に今年度1名配置されている校区内の連携担当教員を中心として、不登校児童生徒への適切な支援や、個々に応じた学習形態の情報共有を行うなど、小学校間の連携を図ると共に、連続性のあるチーム支援を確立する為に、5つの小学校と中学校の担当教員や教育支援センター、研究所、市教委による連携会を開催し、個別最適な学び、支援の引継ぎと切れ目の無いサポートを行い、鏡野中学校における不登校支援の取り組みを進めています。

こちらは先ほどお話しした鏡野校区連携会で作成した長欠不登校の段階表です。対象は不登校を理由とする欠席者のみではなく、それ以外の理由による欠席児童生徒も含めて作成しています。そこには兆しを見逃さない、休み始めの児童というのは、そもそも不登校で休むというよりは、やっぱりお腹が痛いです、ちょっと頭痛がしますといったような、そういった状況で休み始めるということから、理由の如何に関わらず、欠席者数を基にこちらの表の中に子どもの状態を入れてます。

また、欠席日数の多さが不登校の状況の深刻性を図るものではなく、現在の子どもの状況が、一体どの段階にあるのかということのを的確に見取ることも目的としています。併せてこちらに支援、手立てとあるように、支援者側が支援の手立てを基に、その子どもに今必要な支援、視点は何かということをしつかり意識しながら取り組んでいくことを狙いとしています。

ともすると個別に関わりながら、やっと子ども達は安心して学校に来られるという状況、ただ、いつまでもこの先生とだけというような状況であれば、なかなかその状態から抜け出すということにはなりませんので、やはりそういった子どもが少し気持ちが落ち着いてきた段階には、他のお友達と繋げていくような、共に学ぶような、部屋から集団へというふうに、どういった学びスタイルがこの子に少しずつ段階を踏んで必要なのかということをごこちらの支援の手立てで、支援者側も意識しながら取り組めるようにしています。

そして、多様な学びの場として昨年度から取り組みを始めた、鏡野中学校のこちらサポートルームの様子になります。サポートルームには個の学びのスペース、集団の学びのスペース、他にも少しくつろぐことの出来るスペースといったものが叶えられています。また、入り口を入ってすぐのところには、各学級の時間割表やサポートルームに教科の先生が来る時間割などが掲示されています。訪問した生徒はこういったものを参考にしながら、まず自分の今日のスケジュールを決めます。そして、スケジュールを基に個人ブースで自主学習をしたり、教科担当の先生による授業を受けたり、また、サポートルームから学級リモートで授業に参加したりなど、自分で教科ごとに学び方を選択しています。こちらの資料につきましては、子ども達が写っているためお手元の資料の中には入れておりません。

子ども達の中には、この教科は学級で受けると決めて授業に参加したり、この授業はこちらのサポートルームからオンラインで繋ぐ、この時間は個別に学びを進めるなど自分でスケジュール調整をしながら、学習に臨んでいる子どもも多いです。こういった多様な学び方を通して、徐々に友達と関わる時間が増えたり、学級で参加する時間が増えたり、自分の学び方に合う進路を見つけたりなど、自己理解や自立に向けて歩んでいるところとなります。

このように多様な学びの場、学び方の選択を通して、子ども達が夢や志を持ち、社会的自立、そして就労に向かえる為に、子どもが学ぶことが出来る学校づくりを目指して現在取り組みを進めております。

以上となります。

ありがとうございました。それでは、委員の皆さん、いかがでしょうか。

依光市長

何処の市町村もそうなんですけども、不登校問題というのは大きな教育の問題です。

浜田委員

長年、山田小学校と鏡野中学校のコミュニティスクールの委員をやらせていただいて、突然不登校になるということもあるかもしれないけれど、多くは抱えながら不登校になってる、時間をかけてという場合が多いと思います。だから、山田小学校の問題は鏡野中学校に、結果的に受け入れる、もう中学校は受け入れたわけなんですけども、今もそのまま学力の面も一緒ですけど、小学校の時に着いていかなければ、不登校の子は中学校に行っても不登校になっていくので、だから手前で、小中の9カ年を掛けて子ども達を支援する、そういうことをコミュニティスクールの中でもいろいろ言ってたんですけど、なかなかこう減らなかったという部分があります。その点山田小学校が急激に減ってきたということは、やっぱり現場の先生方の理解と努力のものと非常に感謝しています。今後もこう

いう山田小学校モデルを引き継ぎながら中学校と連携して、9カ年の教育をやっているかなくてはいけないと思っています。よろしくお願いします。

依光市長 他はいかがですか。

西委員 不登校問題、学校、先生達もかなりいろいろな対策をしてると思うんですけど、やはり家庭にも協力していただかないと、不登校は大幅な減少は見込めないのかなというふうに私自身は思っていて、親御さんの中には、子どもが学校に行かなくても、それでもよしとする親御さんもやっぱりいらっしゃいますし現実、やはりそこで家庭から学校へ送り出してもらってという、そういう家庭教育もサポートしていかないと、学校の努力だけでは劇的には減っていかないと思います。やはり家庭の支援だったり、家庭のサポートというのも必要不可欠だろうと。不登校になって、最後帰ってくるのは家庭なんですよ。義務教育が終わった時に子どもさんが行き場が無くなった時に親は全ての責任を持つことになってきますので、やっぱり子育ての最終目標っていうのは、子どもの自立だと私は思っています。やはりそこへ向けての支援というのが凄く一番大事になってくるのかなというふうに、今私自身は思っています。なので、それを考えた時に何が出来るのかなというのを、一緒に考えていけたらなというふうに思います。

依光市長 他ご意見は。

宮地委員 勿論この不登校だけを考えるのではなくて、この中には支援を求めている保護者もおられるわけです。ですから、不登校と言うんじゃなくて、子どもが健やかに成長していく為の支援をしていく、そういったシステム化が必要ではないか。学校は学校でもう相当やっていますので、ただ行政として私たちどういうふうに取り組んでいくべきなのかと、以前に市長とも話をしたことがあるんですけど、家庭支援、保護者支援という、今は教育委員会、それから福祉事務所、いろんな各部署でやってるんですが、それを一体化として取り組んでいく、そういったものが必要だろうということで前、春でしたかね、そういうことを是非もう、やっていきたいなというお話をしたんですが。

子どもと家庭と併せて支援やサポートしていく必要、時期に来てるんたなど、特に香美市はこれからどんどん、他所からも人が来て欲しいですから、安心して子育てが出来るとか、行政としては必要じゃないかと、此处でちょっとまた、議論をお伺いしていきたいと思うんですけど。

依光市長

じゃあ、ちょっとまとめみたいなことで。

正に言われた通りで、不登校対策っていうのはもうしっかり、市としても課題と認識してやっていきたい。その中で教育委員会だけではなくて、次長来られますけど、福祉事務所から今回の人事異動というのも、やっぱりその家庭の支援というのが必要であるということも前提で配置をさせていただきました。その時に子どものまず自立、やっぱりその社会に出ていただく為に今どうしていくかというところなんですけど、先ほど小中の9年間ということですけど、自分は高校まで見せてもらえているので、例えば定時制高校とかが発表会というのをやっていて、聞かせてもらおうと、もう本当にずーっと不登校であって、それできっかけがあって、まあ発表出来るようになったと。じゃあ、そのきっかけっていうのを何か行政として仕掛けることが出来ればということなんですけど。やっぱりそれって、引き籠ってたら駄目なんですよ、何か、まあ例えば図書館でもいいし、何かよさこいでもいいし、何か地域のお祭りでもいいんですけども、何か地域の何かに関わって、もしかしたら学校の先生じゃない人が何かきっかけを与えてくれる場合もあって、だから、なかなか答えは自分持っていないんですけど、けど一つだけあるのは、子どもの自尊感情みたいな、何か自分のことがしっかり自信を持ててる、何でもいいんですよ、よさこいを踊って凄いい良かった、何か自信になったでもいいし。だからまあ、さっきの話の中で行くと、自尊感情のほうやっぱり上がって来ないっていう。此处を上げる為には、正にそのよってたかって教育、地域が育てていく。だからいろいろな人が関わっていく、だから学校の先生だけに押しつけては駄目だと思っておるので。さっき、かみーで落語会やってた話をしましたけど、落語って凄くこうなんかな、駄目な人が主人公だったりするんですけど、何かそういう、良い子にならないみたいな？じゃなくても、何かいろんな刺激があったら、外国人と接すると、外国人ってこんな感じなんだ、結構日本と違うねっていうことがあってもいいと思うんで。だからまあ、難しいんですけど、一つは何かそういう発表の場であるとか、何かいろいろなことで関わってもらえることが一つあると。

それともう一つは、家庭をどう支援するかが結構難しく、親が子どもをこうしてる場合が結構あるんですよ。じゃあどう引き離すかっていうところも、児童相談所も含めてやろうして、なかなかこれも難しいんですけど。けどもう、現状を変えることはまあ難しいです。今だから、今は凄く出産のところから今、入ってるんです。妊娠届出したところからうちは保健師さんが家庭訪問して入っているんで、もう何かそこら辺でもうしっかり、こう情報を把握して、何かもっとするっていうところを考える。あとはもう、個別対応じゃないけど、こういうケースはどういう形で自立に向けてやるかっていうところをやっぱり、ケース会みたいなことを教育委員会だけではなくて違う形でやっていく。あの子、何か本

が好きやったら、図書館に通える仕組みを作りましょうとかっていうようなことかもしれないです。まあ難しいことなんですけど、何か自分の答えとしては、何か子ども達に学校以外にも何かいろいろと活躍出来る場所みたいなのも作れたら、だからまあ、自分は不登校のところを見てますけど、自尊感情のアンケートもずっと見てますけれども、何かそういうところと一緒に、学校以外のところで自尊感情を育めるような、何かいろいろね、イングリッシュキャンプでもいいし、何か、香北の自然公園のネイチャー体験でもいいんですけど、何かそういうことを一緒にやりたいなと思います。

宮地委員 そういう話を一回協議して、良い方向に持って行ったらいいですね。

依光市長 そうですね。まあだから何か、子ども達が何かいろんなところに行けるような、何かそういう、いろいろやってるので、何かやれると思うし。

この間も八王子の夏祭り、山田小の子ども達が参加したりして、あれも何か役割を持ってやるところも、それも必死になるかもしれんし。香北のおなばれとかで必ず役割があって、棒打ちやって、またそのお祭りが地域を、子どもを育ててる部分もあるだろうし。何か学校で勉強だけじゃなくていいかなっていうふうに、よってたかって教育、地域が、そういう良さ、市長部局としてはそういうことでお手伝いしたいなと思っています。

浜田委員 結果的に香美市の環境がそういうふうになっていくということが全体的に対策になると思ってますので、学校だけでなく。やっぱりこういうふうにならないと、行政が頑張ってもなかなか。けど行政はそういう環境を作るという一翼を担っているわけですから、是非お願いしたいなと思ってます。よろしくお願いします。

依光市長 ありがとうございます。じゃあ、大体いいですかね。

いろんな子ども達が活躍出来る場面を作りたいという思いはあるので、何かいろんな取り組みを予算化出来るものを作りたい、そういうふうに思ってます。また何かお気づきの点がありましたら、言っていただきたいと思います。

では、不登校のことは以上とします。本当に学校の先生方には頭が下がります。

それでは、議題は以上となりますが、その他に何かありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、一旦事務局にお返ししましょうか。次の開催日程は。大綱のことも今日のことを踏まえて探究の話とか、募集している形でまた、ちょっとまた調整

させてもらいます。

竹崎総務課長

皆様方お疲れ様でした。いろいろなご意見をありがとうございました。

それでは、先ほど市長からもありましたとおり、次の日程につきましては、調整しまして、改めてご案内申し上げるようにさせていただきます。

それでは、これで以上を持ちまして、令和5年度第1回香美市総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。